

# vivo

水戸芸術館音楽紙[ ヴィーヴォ ]

## 10

OCTOBER 2003

### CONTENTS

ヴェルサイユの舞踏会 .....	1、2
[ Portrait ] 班目加奈、佐藤篤 .....	3
日本のうた セミナー 第3期 .....	4
最近の公演から .....	4
ネタマ & petite 情報 .....	5
インフォメーション .....	6
*新コーナー「プロムナード・コンサート の小部屋」5ページに登場!	



ヴェルサイユの舞踏会



## コンサートホールが、いにしへのヴェルサイユ宮殿に姿を変える。

10 / 25(日)『ヴェルサイユの舞踏会』バロック・ダンス・プロジェクト

お待たせしました。17世紀フランスの宮廷舞踏を、アナ・イエベス・ダンス・カンパニーとその仲間たちが華麗に再現するコンサート、「ヴェルサイユの舞踏会」、間もなく開幕です。

アナ・イエベス。その舞台を一度でも観たことがある方なら、必ずや彼女の踊りにもう一度出会い、魅惑されたいと思うに違いありません。偉大なギタリスト、ナルシソ・イエベスの愛娘であり、フラメンコの地スペインで育った彼女は、しかし大地を踏みしめるフラメンコのステップを刻むことよりも、いにしへの宮廷を飾った古典舞踏を復興することを選びとりました。

アナ・イエベスが私たち日本の聴衆に鮮烈な印象を与えたのは、なんとといっても1995年『東京の夏』音楽祭で上演された舞台「マドリガル・コメディ」でしょう。クレマン・ジャンヌカン・アンサンブル(96年に水戸芸術館で楽しいルネサンス・シャンソンの演奏会を行いました)の総帥ドミニク・ヴィスが仕掛けたこの舞台は、ルネサンスの音楽劇「マドリガル・コメディ」の洗練と猥雑を鮮やかに現代に再生させた名舞台として、その年の雑誌『音楽の友』コンサート・ベスト1に輝きました。その時、古典舞踏を踊っていたのがアナ・イエベスとその仲間たちです。ギリシャ風の白い薄布を身にまとった彼女は、あるときは彫像となって身じろぎひとつせず(まばたきすらせず)凝固したかと思えば、アルカイックな笑みを浮かべたままふわりと動き出し、空気の精エアリエルもかかやと思わせる、重

力をまるで感じさせない典雅な踊りで私たちを魅了しました。

あのと「彼女のグループ単独の舞台も観てみたい...」と思った人はきっと客席に数多くいたはずですが、まさに待望の「アナ・イエベス・ダンス・カンパニー」を主役としたコンサートが実現します。それがこの「ヴェルサイユの舞踏会」なのです。16世紀イタリアを舞台にした「マドリガル・コメディ」から一転、17世紀フランス、太陽王ルイ14世の宮廷で踊られていた豪華にして華麗な舞踏の情景を存分にお楽しみいただくという今回のコンサート、なんとまだヨーロッパでも上演されていない、ワールド・プレミア(世界初演)となります。

それにしてもどんなコンサートになるのか。17世紀フランスの舞踏とはいったいどんなものか。アナ・イエベス自身がこのコンサートについて書いたエッセイを入手しましたので、さっそく抜粋でご紹介しましょう(全文は当日のコンサート・プログラムに掲載する予定です)。

\* \* \*

「ヴェルサイユ宮殿の舞踏会」 解説:アナ・イエベス  
ルイ14世とヴェルサイユ宮廷の舞踏

太陽王ルイ14世は踊りの名手でした。1661年にダンス・アカデミーを創り、広く受け入れられる永続的な新しい構成、規則、記譜法による新しいスタイルを創造することで、舞踊術を究めたいと考えました。これは別な意味で、他の国々を支配下に

収め、後世に足跡を記すことでもありました。

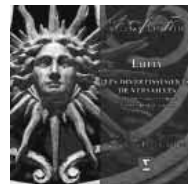
フランス・バロック・ダンスのテクニクは踊りのルーツを築き、これが19世紀初め頃、いわゆるクラシック・バレエになります。そこではすでにすべてのステップの基本となる5つのポジションと、すべての踊りに応用される基本ステップ(パド・ブール、クーベ、ドミクーベ、コントルタン、パ・グラウヴ、ジュテ、シソヌなど)が決まっていました。

その頃、宮廷の舞踏と劇場の舞踏は基本的に同じ構成であり、高度の技巧を必要とする同じテクニクを使っていました。廷臣たちは定期的に踊りのレッスンを受け、その多くは玄人はだしの踊り手でした。踊りがうまいということはヴェルサイユの廷臣たちに最初に求められる資質の一つでした。かれらは宮廷で職業ダンサーたちといっしょに踊り、しばしばルイ14世自身もその中に混じていました。職業ダンサーのテクニクが向上し、宮廷舞踏から分かれたのは18世紀をさらに下った時代のことです。両者の違いはステップの技巧と装飾性が高まったこと、そして作品に含まれるさまざまな舞台的要素を表現するために、腕の動きの幅が広がったことにありました。

本日のバロック・ダンス・コンサート

本日のバロック・ダンス・コンサートではフランス王ルイ14世の宮廷の音楽と踊りを、ヴェルサイユの彼の宮殿で行なわれていた当時そのままの形でごらんに入れます。ダンス・コンサートは次のような2部に分かれています。

CD 写真左から;  
(下記参照)



## 第1部 『舞踏室の夕べ』

本日のコンサートの第1部はルイ14世時代のヴェルサイユ宮廷の夜の舞踏会です。その頃、舞踏会は週1回か2回開かれていました。

最初は舞踏会の開会式の場面。ダンサーたちは二人一組でガヴォットを踊りながら次々に入場してきます。そして国王と王妃によるクーラント、そして王太子夫妻によるメヌエットと続きます。続いて他の有名な踊り “ル・サヴォワ”(ブルー)、“リゴードン・ド・デイドン”、“ラ・フルターニュ”(パスピエとガヴォット)を一組が一つずつ踊ります。

第2場では、オペラで大成功を収めた劇場舞踊をお見せします。これはオペラの中で廷臣たちが踊るもので、デトゥーシュの歌劇 カリロエ から“ミュゼット”、デマレの歌劇 デイドン から“カナリ” (男性デュオ)、マレの“スペインのフォリア”(女性ソロ)などです。ルイ14世は踊りを見ているだけでなく、自らもこのリュリの宮廷バレエ アモルの勝利 から“アポロンのアントレ”を踊ります。これは高度の技巧を要する男性ソロです。

## 第2部 『宮廷での上演』

このコンサートの第2部ではヴェルサイユでの実際の(舞台)上演の様子を再現します。本日見ていただくのはほとんどが 諸国のバレの最後の幕からの抜粋です。この作品ではフランス、イタリア、スペインの3つの国が描かれ、それぞれの国が独自のスタイルの特徴を前面に打ち出しています。

この第2部の踊りは、バロック・ダンスのテクニクとスタイルをもとにして、わたし自身が振り付けたものです。このコメディ・バレの全編を通じて、わたしは多彩な動きを使ってダンサーたちが演じるさまざまな性格を表現しました。ここにはまた、特にこの作品のために作られた3つのオリジナルの振付も入っています。それらはベクールによる“スペイン人のためのサラバンド”(女性ソロ)、アントニー・ラベによる“スペインのルール”(男性ソロ)そしてラ・モンターニュによる“アリルカンのシャコンヌ”(男性ソロ)です。

\* \* \*

いかがでしょうか。前半は舞踏会における舞踊がオリジナルの振付で、後半は舞台上で上演された舞踊が、アナ・イエス自身によるオリジナルの振付で楽しめるわけですね。

このエッセイから、いくつかの楽しみ方のポイントが浮かんできます。まず何とんでも、『めぐり会う朝』『王は踊る』といった映画で再現された17世紀ヴェルサイユ宮廷生活の、粋といえる舞踊の世

界を豪華な衣装と共に存分に楽しんでいただけるということ。また『ベルサイユのばら』ファンの方なら、あのマンガや舞台で描かれた時代の1世紀前の宮廷の雰囲気や堪能できることとなります。それからクラシック・バレエの源流となる舞踊が披露されるのですから、バレエ好きの方、専門的にバレエを踊る方、あるいはご自分の趣味としてバレエを楽しまれている方にとっては必見というべき舞台になるでしょう。もちろん、コンテンポラリー・ダンスを踊られる方にとっても、刺激の多い舞台となるに違いありません。最後に、アナ・イエスがエッセイの中で書いている、「ガヴォット」「リゴードン」「フォリア」「メヌエット」「サラバンド」といった固有名詞。もうお気づきの方も多いと思いますが、これらはすべて舞曲の名で、バッハの無伴奏チェロ組曲 やコレッリのラ・フォリア、ラヴェルのクーブランの墓 といった名曲の中に登場してきます。つまりこうした曲の源流となる舞踊が、実際に舞台上においてどのようなステップで踊られるか、楽しみながら知ることができるのです。おそらくこの舞台を観た後には、無伴奏チェロ組曲の聴き方が、確実に変化すること間違いなしでしょう。

そうそう、舞踊にばかりスポットを当ててしまいましたが、音楽に触れないわけにはいきませんが、アナ・イエスたちの踊りと共演するのは、英国の名ヴィオラ・ダ・ガンバ奏者リチャード・ブース

ビー率いる英国古楽奏者の精鋭。2年前、水戸芸術館で上演されたモンテヴェルディ オルフェオの鮮やかな舞台を支えた音楽家たちと、顔ぶれはかなり重なっています。そしてあの日公演直前に急病のため残念にも出演キャンセルとなったカナダのソプラノ歌手、スージー・ル・ブランが嬉しいことにソリストとして登場してくれます。10年前、「トラジコメディア」と共に水戸芸術館に出演し、まだ若いながらエマ・カークビーもかかやと思わせる清冽な歌声で聴衆を魅了した彼女。近年のディスクでの演奏では、よりしっとりとした甘やかな味わいを加え、「旬」の歌手として今や成熟のただ中にあることがうかがえます。その歌声は舞踊と共に、宮廷の恋の手練手管から神話上の人物の気高き姿まで、いかに描き尽くしてくれることでしょう。

これ以上は何も申しません。あとは10月25日、太陽ルイ14世の栄華が舞台上に蘇るのを楽しみにお待ちいただくばかり。東京等でも公演はありますが、水戸の公演が初日であり完全なワールド・プレミア。しかも東京公演はほぼ完売ということで、ますます水戸公演が貴重なものとなってきました。というわけで、いつも同じようなフレーズで恐縮なのですが、やっぱりこの紹介文も(フランス古典舞踊の雅な世界とはほど遠い)目一杯力を込めたこの言葉で締めくくらせていただきます。「皆様、ぜひお見逃しなく!」《矢澤》

公演前からヴェルサイユ気分 おすすめCD、書籍  
公演で演奏されるものと同じ曲ばかりではありませんが、近い雰囲気を持ったCDをセレクトしてみました。

リュリ:コメディ・バレ集  
(ERATO 2292-45286-2 輸入盤)  
ブルナル(S)メロン(A)ラゴン(C-T)ほか  
マルク・ミンコフスキ指揮ルーヴル宮音楽隊  
リュリ:ヴェルサイユのディヴェルティスマン  
(エラート WPCS11357)  
ディンマン(S)アグニュー(C-T)グラッペ(B)ほか  
ウィリアム・クリスティ指揮レザール・フロリサン  
マレ:ヴィオール組曲 第2番  
(ALIA VOX AV9828 輸入盤)  
サヴァール(gamb)アンタイ(cemb)ほか

くなってきているので見つけたら即ゲットです。は大家クリスティによる新録音。と重なる曲もありますが、アルミード や ロラン など、コメディ・バレのみならず彼のトラジエディ・リリック(抒情悲劇)のさわりも聴けます。こちらの方が入手しやすいでしょう。他の作曲家も含めたアンソロジーでは他に『ヴェルサイユでダンス!』(ルセ指揮レ・タラン・リリック エラート WPCS4960-61)や『ヴェルサイユのコンセール・ド・ダンス』(クイケン指揮ラ・ブティット・バンド アクサン KKCC4229)など楽しい盤がありますが、いずれも日本盤は入手困難になりつつあります。むしろここでは、宮廷舞踊のステップが器楽曲にどう反映しているかを知るための好個の一枚として、マレのヴィオール組曲を挙げましょう。名匠サヴァールによる最新録音です。なお宮廷舞踊について詳しく知りたい方には、『栄華のバロック・ダンス - 舞踏譜に舞曲のルーツを求めて』(浜中康子・著 音楽之友社)という1冊があります。これを読んで理解すれば宮廷舞踊が踊れてしまうかも、というくらい、ものすごく詳しい1冊です。

\* はルイ14世の覚えめでたき大家リュリのコメディ・バレ(喜劇バレエ)のさわりを集めたお得盤。今回と曲目がかぶる 町人貴族のほか 恋は医者 ジョルジュ・ダンダン など名作揃い。今をときめく指揮者ミンコフスキのデビュー当時の録音(1988)で、歌手陣は豪華だし器楽奏者にはファビオ・ピオンディやユーゴ・レーヌら凄腕メンバーが揃っているからたまりません。ただし国内盤、輸入盤共に店頭から見かけな



写真左から；  
班目加奈、佐藤 篤

## Portrait

## Portrait

### 女性だからこそ表現できる、トランペットの魅力を探る

#### 10 / 4 (土) 班目加奈トランペット・リサイタル

各界で活躍している女性に対し「女流ピアニスト」とか「女性映画監督」といった呼び方をする習わしなど過去の遺物であることは重々承知しているけれども、この度芸術館で演奏会を行う班目加奈さんについてはあえて「女性トランペット奏者」という言い方をしても失礼ではないと信じている。それはソロトランペット奏者に女性が占める割合がまだ小さいからではなく、班目さんが「女性であること」に極めて意識的な演奏活動を行っているからだ。

班目さんがトランペットを手にしたのは半ば偶然のなせる業だった。幼い頃から電子オルガンやピアノのレッスンを受けていたが、運命の転機となったのは水戸市立双葉台小学校3年生の冬。同小学校の5周年を記念して結成された金管バンドのメンバーに選ばれ、トランペットを割り振られたのだ。先生と生徒が一体となった結成初期の熱気に、生来の凝り性、研究熱心が作用し、班目

さんがこの楽器の虜となるのに時間はかからなかった。今や吹奏楽の名門であり当時上げ潮の勢いにあった双葉台中学校の吹奏楽部で活躍した後、ひとたびは教員の道を目指すべく水戸二高を経て東京学芸大学に入学するが、演奏への思いやみがたく東京芸術大学別科そして同大学院で学び直したという努力と熱意の人である。

大学院を修了後オーケストラ奏者となることも考えたが、目の前に立ちちはだかったのは男性社会の壁。トランペットに「男性的なもの」を求められることに悩んだ班目さんは、「音量で張り合ったり、無理に男性的になる必要はない」という認識に至る。以後ソロイストとして、茨城県という地元を主な舞台に、女性ならではの魅力を演奏やステージ進行に反映させ、トランペットのそして音楽の楽しさを聴衆と共に分かち合う活動を続けている。そして班目さんの活動はそれだけではない。CDを

出し、多くの弟子を教え、また今や小・中学校の吹奏楽部の多勢を占める女性が無理なく金管を吹きこなすための呼吸システムを研究し、さらには女性金管楽器奏者の社会的立場について考えるために論文をものし、海外の女性奏者との交流を活発に行っている。こうした班目さんの活動の多様な側面は、ご自身のホームページ(<http://www.kana-mf.com>)に詳しい。

10月4日のリサイタルはヒンデミット、アルチュニアン(ハルトゥニヤン)らのオリジナル曲と、より幅広くトランペットの魅力を楽しんでもらうために班目さんが編曲を委嘱したバーンスタイン ウェストサイド物語 等のアレンジ作品などで構成される。ピアノは大ヴェテランの名手、本荘玲子さん。勇壮さや輝かしさばかりではない、女性だから表現できるトランペットの魅力を、班目さんが伝えてくれるはずだ。《矢澤》

### 「教師として、演奏家として、集大成となるリサイタルにしたい」

#### 10 / 18 (土) 佐藤篤ピアノ・リサイタル

茨城大学で教授職を務めると共に、ピアニストとして積極的に活動をされている佐藤篤さん。10月18日(土)のリサイタルでは、「同世代の作曲家達～20世紀作曲事情」と題して、20世紀に生まれた様々なピアノ作品を取り上げる。佐藤さんは、昨年からの「同世代の作曲家達」のタイトルで演奏会を企画する一方、昨年11月にはバロック期の鍵盤曲をテーマとする演奏会を行っている。これからもこうした現在と過去を往復するプログラムの演奏会を5、6年の歳月をかけて取り組まれていくそうだ。

「このシリーズは、ピアノ曲の歴史を振り返りながら、それぞれの時代の作曲家達が相互にどのような影響関係にあったのかを明らかにしようとするものです」とのこと。そのためには膨大なピアノ曲のレパートリーが必要となる。「単に演奏家としてならば、得意な作曲家だけを取り上げていても良いのかもしれませんが。しかし、教える立場にもある以上、様々な時代のピアノ曲を、自らも演奏することで理解していかねばならないと思うので

す。」教育者と演奏家、佐藤さんはその両方の立場から、ご自身の演奏会の意義を見出されている。「このシリーズを、私は音楽活動の集大成となるものにしたいのです。」

プログラムは、前半にイベール、カバレーフスキイ、ヒナステラ、プーランクを取り上げ、後半はダラピッコラとプロコフィエフの作品を取り上げるといふもの。イベールとプーランクは「気楽に聴いていただくため選んだ」という。「ドビュッシーやラヴェルのような革新的な音楽ばかりではなく、シャンソンを口ずさむような軽妙でシンプルな音楽が生まれたのもこの世紀なのです。」カバレーフスキイについては、「旧ソ連の作曲家で、教育者でもあり、子供のための音楽をたくさん残しました。今回演奏する ソナチネ 第1番 も、その系列に属する親しみやすいメロディーに溢れています。」とのことだ。アルゼンチンの作曲家、ヒナステラの クリオージョ舞踏組曲 は、わが国では演奏会では取り上げられる機会が少なく、佐藤さんの気概が感じられる選曲だ。「南米独特の情熱的

なりリズムと同時に、ピアノの打楽器的な奏法や変拍子からは、バルトークの影響が感じられます。」

イタリアの作曲家、ダラピッコラの アンナリベラの音楽帳 もヒナステラ作品同様、演奏会ではなかなか聴くことの出来ない作品。伝統的な機能性による音楽書法に替わるものとして、20世紀に案出され大きな潮流となった十二音技法で書かれている。「作曲者の娘に捧げられたという練習曲で、決して技法をひけらかすところがなく、あくまで自然な音楽が流れています。」カバレーフスキイ同様、旧ソ連のプロコフィエフ作品からはピアノ・ソナタ 第7番 を取り上げる。「20世紀の傑作のひとつとして名高い曲ですが、第1楽章の無調的な音楽など、カバレーフスキイとはまったく違う作風を聴き比べていただけたら」と佐藤さん。

「20世紀の音楽というと難解なイメージがつかまとうのか、お客様から敬遠されがちなのですが、今回はあえてどなたにも親しみやすい曲も選んだつもりです。どうぞ聴きにいらしてください」と、佐藤さんはお話を締めくくられた。《松田》

# 時代は戦後へ。抒情の香り高い別宮貞雄の歌曲を味わいます。

10 / 19(日) 畑中良輔の 日本のうた セミナー 第3期「別宮貞雄」

音楽や詩についての具体的な考察はもとより、ひろくは日本の文化全体までも見渡しながら、私たちの財産とも言える 日本のうた を見つめなおしていく当セミナー。講師・畑中良輔氏の百科全書のような博識と経験が、独特のやわらかい語り口で伝えられ、音楽を専門に学んでいない方々にも「とても勉強になる」「感性が磨かれる」と、毎回ご好評をいただいております。

今回から時代的には第2次世界大戦後に入り、まず別宮貞雄(べっく・さだお / 1922 ~ )の作品を研究します。別宮貞雄は、ドビュッシーやラヴェルといった近代フランス音楽の影響のもとで作曲活動を開始し、1946年の 管弦楽のための二章 で第14回毎日音楽コンクール第2位に入賞。51年から54年まではパリに留学し、ミヨーやメシアンのもとで作曲を学び、その経験は56年の 管弦楽

のための二つの祈り に結実します。一方、別宮は当時バリで台頭しつつあったセリー主義に代表される前衛音楽には、共感を示しませんでした。「音楽の根源は“うた”と“おどり”にある」と語る別宮にとっては、歌や旋律の持つ豊かで自然な感興こそが大切だったのでしょ。

こうした別宮貞雄の音楽観からすれば、早い時点から歌曲にとりわけ優れた作品を残していることは当然といえるかもしれません。今回のセミナーで研究曲として取り上げるのは、まず48年作曲の歌曲集 淡彩抄。物静かな言葉の連なりの中に、男性的な激しい情念を潜ませる大木惇夫の詩にインスパイアされて書かれた歌曲集で、畑中良輔氏は「青春の香り高く、若々しい音たち」と評しています。もう1つの研究曲は、51年作曲のさくら横ちょう。加藤周一の詩による抒情歌曲

で、最も有名な別宮歌曲の1つです。同じ詩による中田喜直の曲もよく知られています。

ゲストには、ソプラノの小泉恵子さんをお招きします。茨城県出身の小泉さんには、「日本の歌・この100年」や「クリスマス・コンサート」など、水戸芸術館の催物にたびたびご出演いただいておりますので、ご存知の方も多いでしょう。小泉さんは、第1回奏楽堂日本歌曲コンクールで第1位を獲得、また大中恩、菅野浩和といった作曲家たちから初演依頼や作品の献呈を受けるなど、日本歌曲の第一線で活躍している歌手です。ミニ・コンサートでは、別宮貞雄の歌曲のほか、中田喜直のさくら横ちょう、柴田南雄の歌曲集 優しき歌からの抜粋が予定されており、戦後の音楽界に吹いたさわやかな新風がコンサートホールに再び立ち現れることでしょう。《関根》

## 最近の公演から

AUGUST



1



2



3



4



5

畑中良輔の 日本のうた セミナー 第3期  
「平井康三郎 II」(8月3日)

昨年11月30日に享年92歳で惜しまれつつこの世を去った平井康三郎の研究の続編。前回は歌曲集 日本の笛 を特集しましたが、今回はそれ以外の氏の代表作 平城山 九十九里浜 ゆりかご などを取り上げました。講師・畑中良輔氏の絶妙なレクチャーについては、以下のアンケートをご覧ください。ゲストには、このセミナーへは2回目の出演となるソプラノの中澤桂さんが登場し、月 しぐれに寄する抒情 うめぼれ鏡などを披露。歌詞に込める多彩なニュアンスや、大きな弧を描くような歌いまわしはやはり別格で、客席にしみじみとした感動を届けていました。《関根》アンケートから 前回参加させていただき、感謝して2回目です。日本語のひびき(詩と言葉)を声のにせる難しさを改めて痛感させられるレクチャーです。生意気ですが、聞きながら「あれ?」と思った表現が先生の指摘で解明されました。年はとって感性を磨かなくては、と痛切に感じました。(取手市:F.S.さん) 日本にもたくさんいい歌曲が残っていて、私たちはとすると西洋の歌に中心を寄せる傾向がある中、このようなセミナーは本当に価値あることで、日本人として日本の情感を芸術的に体感させてもらいました。(仙台市:R.K.さん)

タラフ・ドゥ・ハイドゥークス 東欧義賊楽団  
(8月24日)

ルーマニアはクレジャニ村から襲来したロマ音楽バンド、タラフ・ドゥ・ハイドゥークス。補助席を含めて完売御礼の客席の期待を上回る驚天動地のパフォーマンスにより、コンサートホールを熱風で包

んだ。タラフのメンバー、ふだんは村のおじさんたちの寄り合いという感じなのに、舞台上ではすさまじいミュージシャンシップを発揮。1曲目から信じ難い超高速演奏で聴衆の度肝を抜く。その後も歌あり踊りあり、要所は超絶的なアンサンブルで盛り上げる。客席は手拍子あり立ち上がる人ありの熱狂状態。終演後はエントランスホールにメンバーが登場して聴衆にサインしまくりつつ交流をしばし楽しんだ(メンバーのステージ外での活躍ぶりについては「ネットマ」をご覧ください)。なお今回は水戸市のNPO法人「シネマパンチ」との共催で、8月2日(土)に関連映画『ラッチョドローム』の上映をACM劇場にて行った。《矢澤》アンケートから 速い!速い!高速!!すごい!すごい!絶句!!(水戸市:K.K.さん) こんなに興奮したのは久しぶりです(那珂郡:Y.T.さん) 待ちに待ったコンサート、まさかあのタラフがこの水戸で聞ける見られるなんて(日立市:E.A.さん) 自分が今まで「知っている」と思っていたバイオリンやオーボエの音じゃない「音」がきこえてくる。かんだうです!(水戸市:Mさん) 今回の来日中唯一のPAなしのコンサートで期待していました。超快速のため聴き取れないかと思いましたが、良い音響条件の中で非常に楽しい時間を過ごす事ができました(千葉市:W.H.さん)\*今回の公演は彼らの演奏の迫力と繊細さの対比をできるだけ「生」で楽しんでいただくためにPAを使用しませんでした。「ヴォーカル等聴きとりにくい」という意見もありましたが、このような意図に基づくものであったことをどうぞご了承ください。人生53年の中で、最も感動的なコンサートでした。(中略)人間よ、武器ではなく楽器を、そして歌をとれ!!(茨城県:Y.I.さん)



\*nettama=ネットワークする猫。タマ。芸術館のコンサートをサカナにいろんところへnettamaします。

### ネットタマ夏日記2( 晩夏篇 )

8月23日(土)~24日(日)ひさびさに夏らしい2日間。タラフドゥ・ハイドゥークスの一行がやってきた。なんでも初来日のとき関西空港に演奏しながら降り立ったとかいろんな伝説があるから、どんなことが起こるのか楽しみだったのだけれど、いやまあ、陽気な台風とでも形容すべきかとにかく痛快な人たちだった。担当のYにくっついて見ていたけれど、案の定(?)ステージの外でも大活躍してくれたので各メンバーにスポットを当ててそのさわりをご紹介します。

\*まず一番の超人キャラが笛のゲオルゲ。メンバー一行は23日の昼に成田から水戸入りして昼食を摂ったのだけれど、まさき会場から蒸発。ふたたび姿を現したときには、その日広場のフリーマーケットで購入したラジカセを小脇に抱えていた。聞けば5,000円のを1,000円に値切ったのだという。彼らはほとんど英語できないし、ロマニー語と日本語でいったいどんな交渉が?しかもゲオルゲ、この間に館内のミュージアム・ショップを仲間と共に訪問、仲間たちがCDジャケットに映っている顔を指差し「これは僕だよ」とはしゃぐのを尻目に店員に頼んでタラフのCDを借りていった。担保になぜか幼児用日本語教材CD『たのしいな』を置いて...

\*ゲオルゲの活躍は続く。翌朝、Yのもとにフェイスから「タラフの人たちが来ています」と内線電話。駆けつけてみると、髪がこざっぱりしたゲオルゲとアコーディオンのマリウスが、近くの美

容室の方をお連れして立っている。なんと散髪してもらい、しかもムチャクチャ値切ったらしい。そして、お礼にコンサートに招待する、俺の名前を出せば大丈夫だ、と美容室の方をホールに連れてきたのだ。丁重にお礼申し上げ、ご招待さしあげたのは言うまでもない。言語の壁を超える超人ゲオルゲ。\*ヴァイオリンをこれでもかと高くさし上げて奏く名手カリウ(来日の度にその高さが増しているそう)はバンド1の色男。夕食時の居酒屋でカウンターに座った女性を口説き、演奏会の途中休憩時(!)にお客様の女性を口説き、われらがスタッフBもその甘い誘惑の罠に危機一髪!ロマニー語で彼がどんな口説き文句をささやいたのか。彼女は遠い目をして「今年の夏はジブシー・サマーね...」とつぶやくのみであった。ところでカリウ・ファンの女性の皆さん、念のため43歳のカリウにはすでに孫がいることをお伝えしておこう。\*昨年逝去したニコラエに代り長老の座?に躍り出た70代コンビ、ヴォーカルのイリエとカクリカ。特にカクリカはすっかり人気者、終演後のサイン会でもひっぱりだこ。サービス精神旺盛なカクリカ、なぜかメンバー全員の名前をサインしていた。ただし「カクリカ・バイウ!」と自分の名前を連呼し覚えてもらうことも忘れず。

...これだけじゃ済まないくらいいろいろあったのに紙面の都合上ご紹介できないのが残念だがこうしたエピソードが愉快だっただけに、ステージに立った時の彼らの熱演、全力投球ぶりが

忘れられない。彼らにとっての音楽とは、生活の切実な「手段」である一方、空気が身体の一部のように不可欠の存在、それを奪われたら精神的にも肉体的にも死んでしまうほどのものなのだ、と痛感した。ともあれ、この旅する義賊楽団に、心からラッチョ・ド・ローム(よい旅を)!当日演奏された曲目はまだ不明の部分があり(涙)わかり次第芸術館のホームページに掲載するそうです。

8月30日(土)パイプオルガン・プロムナード・コンサートの新しい企画として、スタッフのNとBがプロデュースする新しいシリーズ「オルガン名曲ライブラリー」を聴く。毎回テーマを決めてオルガン音楽の魅力をより深く知るこのシリーズ1回目のテーマはJ.S.バッハ。有名なトッカータとフーガにはじまりトリオ・ソナタ第5番、ファンタジア、コラール。我が魂は主をほめまつるの4曲を高橋博子さんが演奏した。もう堂々たるキャリアを誇る高橋さん、意外にもオール・バッハ・プロにはじめてのことだったが特に後半のファンタジアからコラールへの流れは実に感動的な高揚をみせ、お客様からは絶賛の拍手。「これまでのプロムナードで一番感激した」と語る方もいた。コラールの豪壮だが深い響きが短い夏の熱気を静め、季節は秋へとむかってゆく。



「カクリカ・バイウ!」

## 速達 Petite 情報

専属楽団メンバーのCDをコンプリートしつつあるコレクターのあなたに、レア・アイテム登場のニュース!小澤征爾MCO音楽顧問の師・斎藤秀雄が新日本フィルを指揮した1973年の歴史的ライブ録音に、MCOメンバーの久保陽子(ヴァイオリン)がソリストとして登場しています。曲はモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番 トルコ風 (TOKYO FM ARCHIVES SELECTION TFMC-002)。また、先日逝去したピアニスト井上直幸のメモリアル・アルバム『抒情のピアニスト・井上直幸の芸術』(BMG BVCC38263~6)に1970年代の宮本文昭(オーボエ)との共演が収録されています。曲はバッハのBWV1020、モーツァルトのK.13のオーボエ・ソナタ2曲。

### 新コーナー

#### プロムナード・コンサートの小部屋

「オルガン名曲ライブラリー」 第2回 J.S.バッハ

これだけは是非お聴きいただきたい!というオルガンの名曲を厳選し、作曲家や地域、作曲時期などの観点から、毎回テーマを決めてお贈りするの、「オルガン名曲ライブラリー」です。10月5日(日)に実施する第2回目の公演のテーマは、第1回に引き続き「J.S.バッハ」。演奏曲は、前奏曲とフーガ ホ長調 BWV566 とコラール 装いせよ、わが魂よ BWV654、そして最後は、壮麗で巨大な建造物を思わせる パッサカリア BWV582 が演奏されます。出演は、東京芸術大学を経て、現在スイスのパーゼル・スコラ・カントルムに留学中、今年6月にはオランダで行なわれたシュニッガー国際オルガンコンクールで3位を受賞した勝山雅世です。《中村》

## information

### チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029-231-8000  
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

### 公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029-227-8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】木曜日18:15頃~15分ほど(不定期登場) 水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

### チケット・インフォメーション 10月4日(土)発売分

ミト・デラルコ 第6回演奏会  
12/13(土) 18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000  
クリスマス・プレゼント・コンサート 2003  
12/23(火・祝) 17:00開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

ミト・デラルコ 第6回演奏会には、10月1日(水)より友の会の先行電話予約があります。

### これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

班目加奈 トランペット・リサイタル 10/4(土) ...自由席  
佐藤 篤 ピアノ・リサイタル 10/18(土) ...自由席  
畑中良輔の 日本のうた セミナー 第3期  
10/19(日)...自由席、1/18(日)...自由席  
ヴェルサイユの舞踏会 バロック・ダンス・プロジェクト  
10/25(土) ...中央、左右・裏  
水戸室内管弦楽団第55回定期演奏会  
11/8(土) ...中央x、左右・裏  
11/9(日) ...中央x、左右・裏  
水戸室内管弦楽団第56回定期演奏会  
11/22(土) ...中央x、左右・裏  
11/23(日) ...中央x、左右・裏  
9/14(日)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館10月のスケジュール

### コンサートホールATM

班目加奈 トランペット・リサイタル  
10/4(土) 16:00開演 料金(全席自由):¥2,500  
佐藤 篤 ピアノ・リサイタル  
10/18(土) 16:00開演 料金(全席自由):¥3,500  
畑中良輔の 日本のうた セミナー 第3期 第2回「別宮貞雄」  
10/19(日) 14:00開始 料金(全席自由):¥1,500  
ヴェルサイユの舞踏会 バロック・ダンス・プロジェクト  
10/25(土) 18:30開演  
料金(全席指定):S席¥7,000 A席¥5,000 B席¥3,500

### エントランスホール

パイプオルガン ブロムナード・コンサート  
10/11(土)13:00/15:00 10/12(日)12:00/13:30  
10/26(日)12:00/13:00  
「オルガン名曲ライブラリー」第2回 JS パッパ  
オルガンの名曲を作曲家ごとに紹介するシリーズ  
10/5(日)12:00/13:30 オルガン:勝山雅世  
入場無料 演奏は各回20分程度です。

### ACM劇場

市村正親 30周年記念リサイタル 『オモチャ箱』  
10/1(水)10/2(木) 各日19:00開演  
料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥3,000  
ACMダンス公演 『B-SIDE』  
10/11(土)19:00開演、10/12(日)16:00開演  
料金(全席自由):一般¥3,000 学生¥1,500

フランス・ダンス・03 『ワタシなりのダンスの歴史』  
10/18(土)16:00開演 料金(全席自由):一般¥2,500 学生¥1,500  
萬狂言 水戸公演 2003  
10/26(日)14:00開演  
料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥2,000 団体(10名以上/A席のみ)¥3,600

### 現代美術センター

こもれび展 8/9(土)~10/5(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)  
「YES オノ・ヨーコ」  
10/25(土)~1/12(月)9:30~18:00(入場は17:30まで)  
休館日:月曜日  
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、各種障害者手帳をお持ちの方は無料

## 茨城の主な10月の演奏会

### 佐川文庫 TEL / 029(309)5020

佐川文庫リサイタルシリーズ~若きピアニストたち~ 須藤梨菜  
10/18(土) 18:00開演

### 常陽藝文センター TEL / 029(231)6611

山口泉恵 ピアノリサイタル  
10/4(土)14:30開演 (問)山口 TEL / 0299(22)3483

### 茨城県民文化センター TEL / 029(241)1166

スペイン国立バレエ団 10/14(火)18:30開演

### 水戸市民会館 TEL / 029(224)7521

エスター・ブジャージョ ピアノリサイタル 10/10(金)18:30開演

### ひたちなか市文化会館 TEL / 029(275)1122

宗次郎コンサートツアー・2003・2004~オカリナ・エチュードコレクション  
10/3(金)18:30開演  
(問)宗次郎オカリナコンサート実行委員会 TEL / 029(252)8762  
ロシアフォークアンサンブル “ベチェ&ロシアーナ”  
10/18(土)17:30開演  
(問)チャリティコンサート実行委員会 TEL / 029(273)7555

### 東海文化センター TEL / 029(282)8511

2003 東京室内管弦楽団 リクエストコンサート スクリーンミュージック特集  
10/4(土)18:00開演

### ギター文化館 TEL / 0299(46)2457

マリア・エステル・グスマン ギターリサイタル 10/4(土)15:00開演

### パバホール TEL / 029(852)5881

マリア・エステル・グスマン ギターリサイタル 10/2(木)19:00開演  
つくば学園都市オーケストラ 第32回定期演奏会 10/5(日)14:00開演  
バスカル・ロジェ ピアノ・リサイタル 10/10(金)19:00開演  
パノハ弦楽四重奏団 10/19(日)15:00開演  
大崎結真 ピアノ・リサイタル 10/25(土)14:00開演  
(問)河合楽器製作所 取手店 TEL / 0297(73)0157  
ユリー・バシュメット&モスクワ・ソロイスツ 10/30(木)19:00開演  
「野口雨情を謳う」-茨城県在住の二期会会員による 第2回声楽コンサート-  
10/31(金)19:00開演

### 鹿嶋勤労文化会館 TEL / 0299(83)5911

モンゴルの夕べ 演奏会 10/7(火)18:30開演  
(問)内モンゴル沙漠植林交流協会 TEL / 0299(69)4539

### 龍ヶ崎市文化会館 TEL / 0297(64)1411

沖縄・残波大獅子太鼓 10/5(日)18:30開演  
東儀秀樹 コンサートツアー 10/10(金)18:30開演

### イル・プリランテ(明野町中央公民館) TEL / 0296(52)5333

リンクス フルート コンサート 10/19(日)14:00開演

### 東茨城郡桂村高根山大山寺 本堂

「箏弾き語りでつづる平安の世界」水木 結  
10/18(土)14:00開演(追加公演)(問)邦楽鑑賞の会 TEL / 029(257)3737

[お知らせ]今号を最後に、スタッフ松田善幸が退職いたしました。2年間の在職期間、皆様ありがとうございました。

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴ】 2003年10月発行 第93号  
編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp]  
編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵  
松田善幸 矢澤孝樹(編集長)

DTP / office west  
印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...2人の「マエストロK」がMCO!